

# 地域課題解決に向けた広域連携の取り組み

令和6年2月7日  
三島市

# 本日の説明事項

1. 富士山南東スマートフロンティア推進協議会について
2. ふじのくにフロンティア推進エリア形成事業について
3. 自動運転実証実験について



# 1 富士山南東スマートフロンティア推進協議会について

3

～地域の魅力向上と、先進技術や官民連携による地域課題の解決を目指す取組～

- 富士山南東消防組合を設置している当該地域（裾野市、長泉町、三島市）において、**少子高齢化や行政のデジタル化など様々な地域課題の解決に向けて広域連携による取組を進めるとともに、民間事業者との連携や先進技術の活用**などを検討するため、各首長を構成員とする協議会を設置（令和3年8月18日発足）。
- **それぞれの地域資源や主要プロジェクトなどの知見を共有し、世界に発信できる魅力あるエリア形成を目指す。**
- 生活圏をともし、本協議会活動に関心を持っていた**清水町が令和5年6月から新たに参画し、2市2町の広域連携による取組を進めている。**

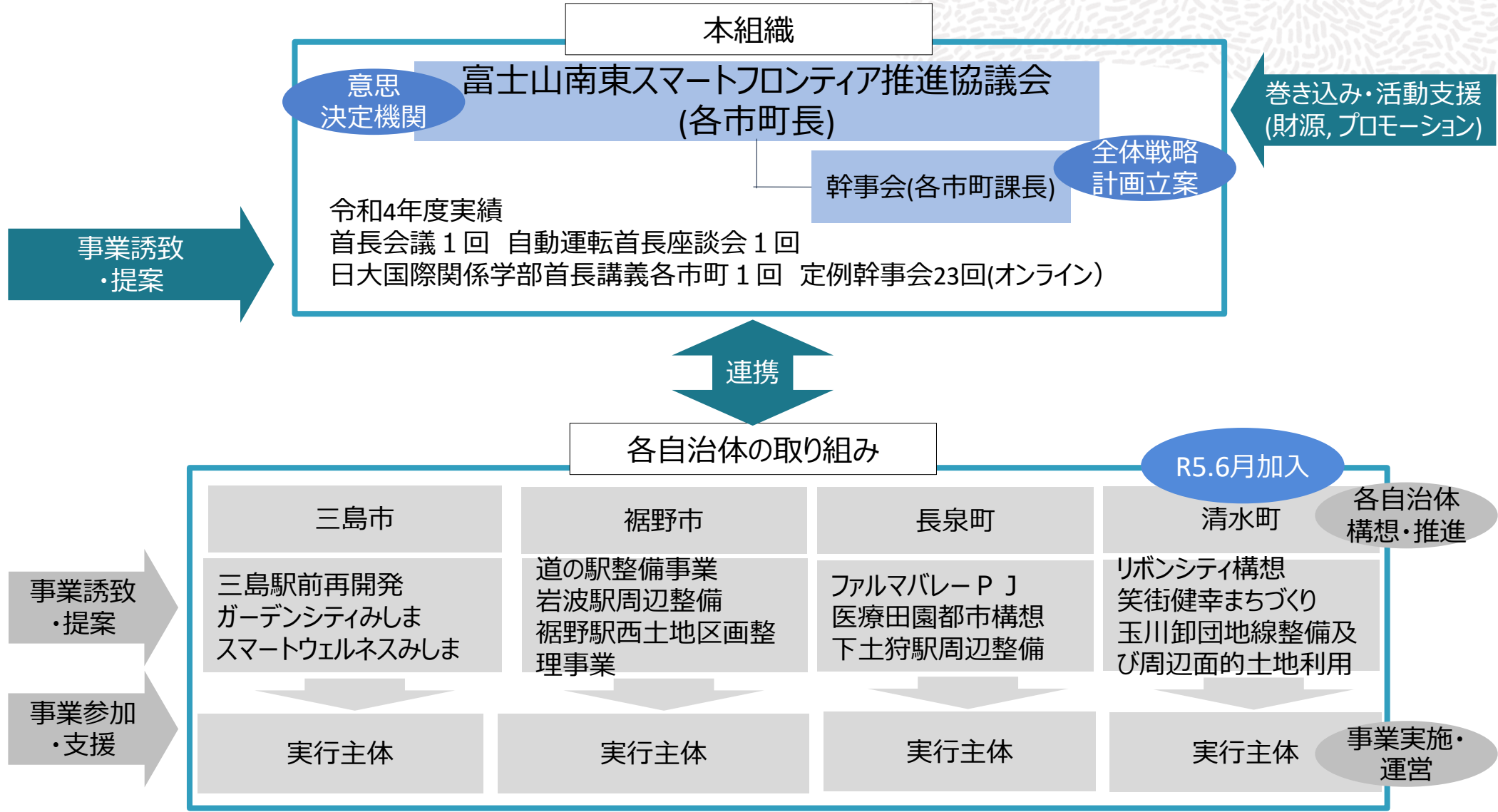


令和5年8月4日、2市2町になって初の首長会議

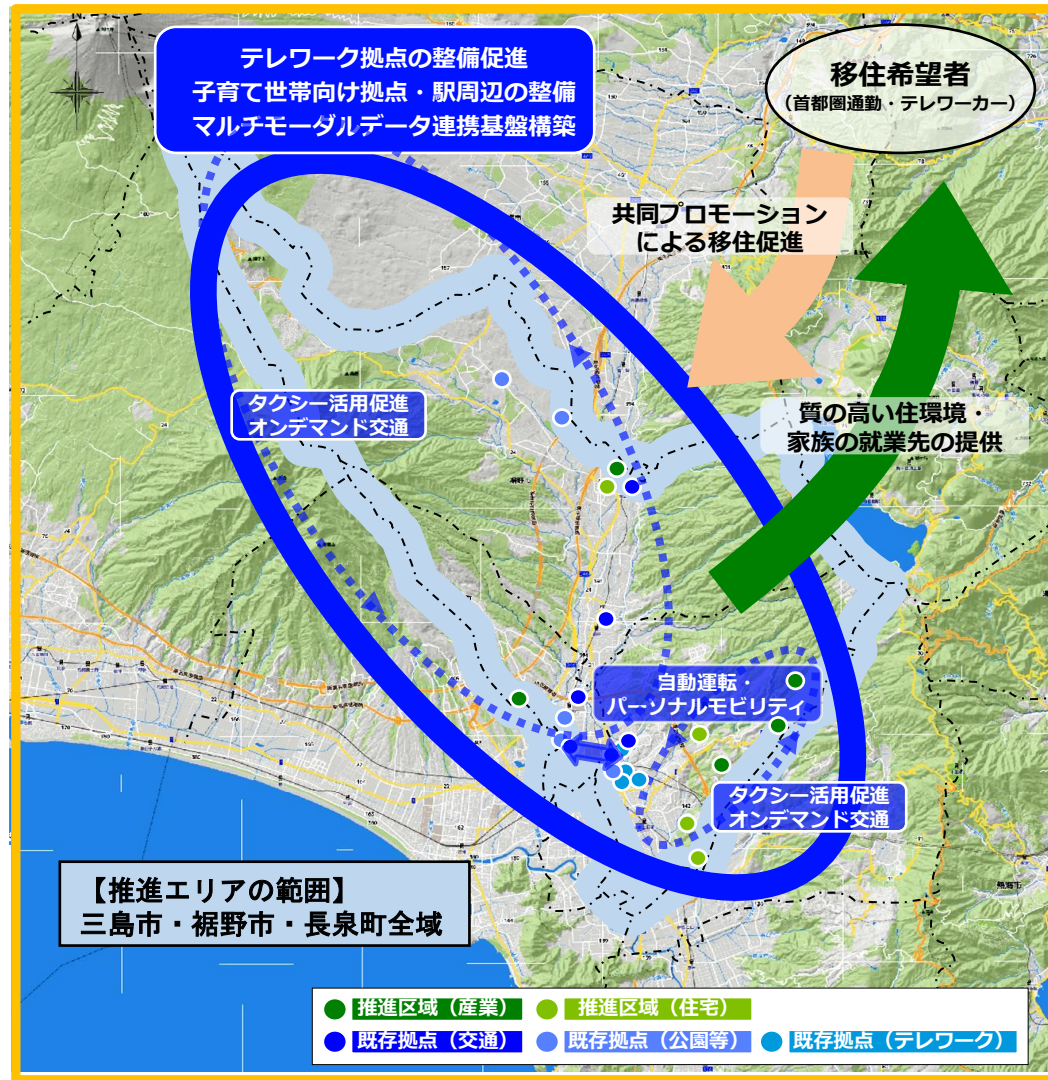
# 推進協議会 体制図

参画団体 (外部企業)

国・静岡県



# 2 ふじのくにフロンティア推進エリア形成事業 5



## 地域の目指す姿

子育てに適した豊かな自然環境や首都圏への良好な交通アクセスを活かしながら、三島駅をハブとした車を持たずとも暮らしやすい移動環境を提供することで、「子育て世帯」「首都圏通勤者」「テレワーカー」の移住希望者から選ばれるエリア。

ふじのくにフロンティア推進エリアの概要図

## ○若者の流出

- ・進学・就職を機にした若者の転出が多く、生産年齢人口の減少と一層の高齢化、将来的な地域の活力低下が懸念

## ○地域公共交通の弱体化

- ・利用者減少やドライバー高齢化により、地域公共交通の維持・存続の困難さが増大

## ○移動手段の自家用車への依存

- ・エリア内に生活利便施設や娯楽施設、産業拠点が散在し、首都圏からの移住者など自家用車を保有しない人にとって 移動が不便

## ○子育て世帯のニーズに合った魅力ある拠点の整備・活用

- ・コワーキングスペース等のテレワーク拠点の整備を促進し、日頃はエリア内でテレワークを行い、必要な時にだけ首都圏に勤務する、「転職なき移住」実現の場を創出
- ・子育て支援センター等の交流施設や公園の活用（整備含む）・P Rにより、子ども同士・親世代同士の交流を促進し、移住者が孤立せず安心して子育てできる環境を創出
- ・空き家活用などに重点的に取り組む移住モデル地区を形成し、移住者を呼び込む受皿を整備

## ○新幹線三島駅をハブとしたエリア内移動の利便性向上

- ・三島駅及びJR御殿場線の駅周辺の賑わい創出、自動運転技術やタクシー活用促進・オンデマンド交通導入、パーソナルモビリティ拠点拡充により、誰もが移動しやすい交通ネットワークを整備
- ・あらゆる移動手段とサービスをシームレスにつなげるマルチモーダル※ データ連携基盤の構築により移動・生活の利便性を向上するとともに、有事には避難場所等の情報発信により安全・安心を向上

※様々な種類の情報を利用して高度な判断を行うA I

## ○住みやすい街、産み育てやすい街としてのブランド確立

- ・首都圏子育て世帯向けに、ブランディング・プロモーションを2市1町で一体的に実施し、若者の移住を促進

## 推進エリア内で実施する事業

○推進エリアの名称 首都圏の子育て世帯から選ばれる「転職なき移住」推進エリア

○計画期間 令和5年度～令和7年度

	【事業名】	【事業概要】
三島市	移住促進事業	2市1町移住PR、空き家の利活用等
	三島駅の魅力向上事業	テレワーク拠点整備、賑わい創出等
	移動利便性向上事業	オンデマンド交通実証
裾野市	シェアサイクル利用促進事業	裾野市内にシェアサイクルのポート設置及び利用促進
	駅西公園整備事業	裾野駅周辺に新たな公園整備
長泉町	マイナカード活用タクシー利用助成事業	マイナンバーカードを活用したタクシー運賃助成の利用拡大
	小型モビリティ等実証運行	小型モビリティ等による三島駅北口と下土狩駅を結ぶ実証運行



### 3 自動運転実証事業について

「富士山南東スマートフロンティア推進協議会」（三島市・裾野市・長泉町・清水町の4市町で構成）では、地域のスマート化の一環として、自動運転実装に向けた取り組みを開始しました。

- 国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）」の採択を受け、三島駅北口と下土狩駅の区間1.5kmのルートにおける自動運転実証運行をレベル2で実施。



# 実証実験概要

- ルート 三島駅北口⇔下土狩駅（全区間自動走行）
- 車両 小型バスタイプ 1便あたり8名の試乗
- 自動運転 レベル2相当（運転席「有人」での自動運転） ⇒遠隔は監視のみで遠隔制御は無し
- 試乗期間・試乗時間 12月1日（金）～4日（月） 10：00～16：00

## 走行ルート（全体像）

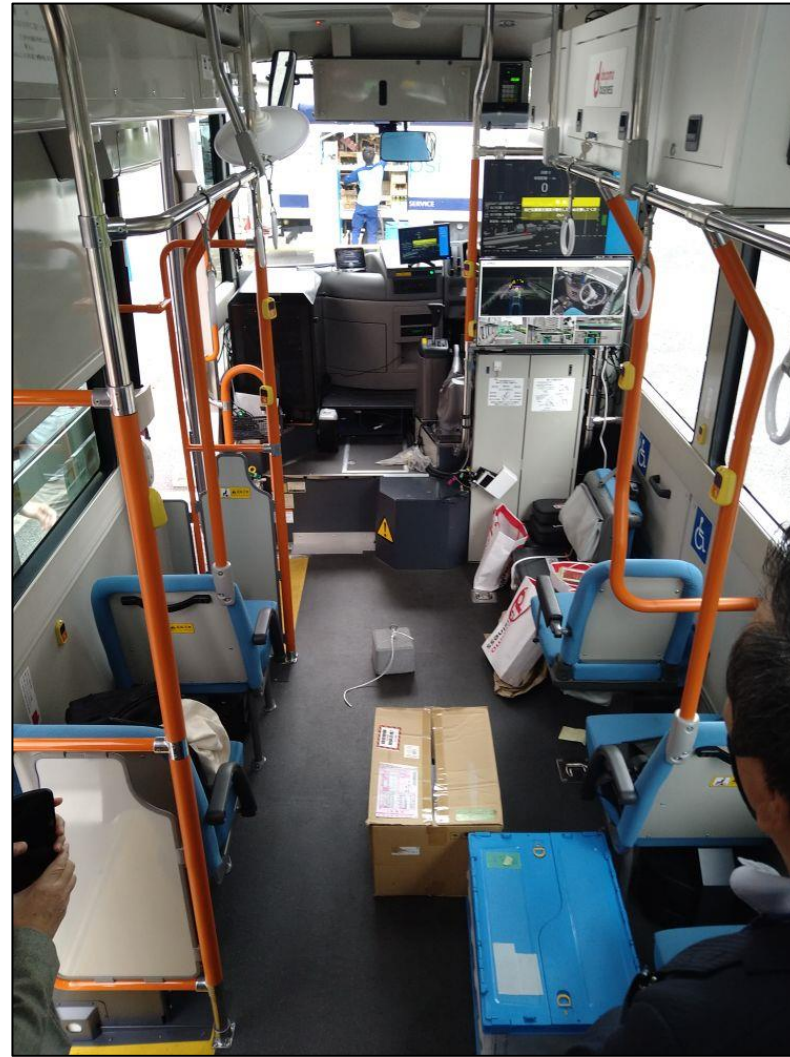


日本大学国際関係学部三島  
キャンパス内駐車場と下土狩  
駅間をシャトル運行(途中停車は  
無し)

下土狩文教線は、歩車分離さ  
れているため、自動運転車両  
の走行には適したルートとなっ  
ている



車外の様子



車内の様子



車内の自動運転に関する表示

# 自動運転実証運行結果と乗車人数について

## ■ 走行距離

	期間	距離	備考
実証期間総走行距離	11/16-12/4	603km	
調律期間走行距離	11/16-11/30	468km	・手動運転期間含む・11/29-11/30は実質「関係者試乗」であり、首長、議員、行政職員が試乗
本番期間走行距離	12/1-12/4	135km	朝昼の試走及び給油のための1往復含む
本番期間中手動介入回数と距離		解析中	
本番期間中自動運転化率		解析中	

## ■ 乗車人数（本番期間12/1-12/4のみ） ※一般試乗もキャンセルがほとんどなく、住民の方の関心が高かったことが伺える

日付	一般試乗						招待者試乗		
	三島駅北口側乗車			下土狩乗車			招待試乗枠	乗車人数	乗車率
	試乗枠数	乗車人数	乗車率	試乗枠数	乗車人数	乗車率			
12/1	40	39	97.5%	40	37	92.5%	8（報道便）	8	100%
12/2	56	52	92.9%	56	56	100%	24（日本大学）	24	100%
12/3	80	70	87.5%	80	69	86.3%	0	0	
12/4	44	42	95.5%	44	43	97.7%	16（警察・バス）	16	100%
小計	220	203	92.3%	220	205	93.2%	46	46	100%
合計	試乗枠 440_乗車人数408_乗車率92.7%								

ご清聴ありがとうございました。